平成 28 年度　地域活性化総合特別区域評価書【正】

作成主体の名称：　奈良県

１　地域活性化総合特別区域の名称

奈良公園観光地域活性化総合特区

２　総合特区計画の状況

①総合特区計画の概要

奈良公園の資源を更に維持･利活用することにより､充分に奈良公園の魅力を発信させ、世界中の方に奈良公園を訪れたいと思わせるよう工夫するとともに、特区通訳案内士制度等の規制の特例措置や金融上の支援等を活用しながら、外国人観光客や宿泊客の受入環境を充実させ、滞在型観光の推進に係る取組を行う。

②総合特区計画の目指す目標

〇奈良公園の資源の「維持」･「利活用」による観光の振興

〇受入環境の充実による滞在型観光の推進

豊富な歴史・文化資源や自然資源を更に維持・利活用することにより、充分に奈良公園の魅力を発信させ、世界中の方が奈良公園を訪れたいと思って頂けるよう工夫するとともに、観光客の受け入れ環境を充実させることにより、実際に奈良公園の魅力を体感し、満足してもらえる環境を整え、日本にとどまらず世界中からの観光客で賑わう「世界に誇れる公園」とすることで「地域の活性化」を目指すものである。

③総合特区計画の指定時期及び認定時期

平成２５年　９月１３日指定

平成２６年　６月２７日認定（平成２９年３月２７日最終認定）

３　目標に向けた取組の進捗に関する評価（別紙１）

①　評価指標及び留保条件

評価指標（１）: 奈良市の観光入込客数の増加≪代替指標による評価≫

数値目標（１）: １，３１４万人（Ｈ２３年）　→　１，８４２万人（Ｈ３０年）

代替指標（１）: 奈良市の主要観光施設・行祭事等観光入込客数

８１４万人（Ｈ２３年）　→　１，１４２万人（Ｈ３０年）

［平成２８年目標値１，０４８万人、平成２８年実績値１，０１２万人、進捗度９７％］

評価指標（２）: 奈良市の宿泊者数の増加≪代替指標による評価≫

数値目標（２）: １３６万人（Ｈ２３年）　→　１９６万人（Ｈ３０年）

代替指標（２）: 奈良市の宿泊客数【観光庁統計・宿泊旅行統計調査】

１１５万人（Ｈ２３年）　→　１６６万人（Ｈ３０年）

［平成２８年目標値１５２万人、平成２８年実績値１４４万人、進捗度９５％］

評価指標（３）: 奈良市の観光消費額の増加≪代替指標による評価≫

数値目標（３）：１，１７２億円（Ｈ２３年）　→　１，６５５億円（Ｈ３０年）
代替指標（３）:【代替】奈良市の観光消費額［進捗度１２６％］
７８５億円（Ｈ２３年）　→　１，１０９億円（Ｈ３０年）
［平成２８年目標値１，０１７億円、平成２８年実績値９４５億円、進捗度９３％］

② 寄与度の考え方：該当なし

③ 総合特区として実現しようとする目標（数値目標を含む）の達成に、特区で実施する各事業が連携することにより与える効果及び道筋

・特別天然記念物「春日山原始林」や天然記念物「奈良のシカ」、奈良公園周辺の眺望・景観等の自然資源、史跡や伝統的行催事等の歴史・文化資源、数多くの公園施設等の公園資源の維持・利活用による観光振興を推進し、「観光入込客数の増加」を図る。
・宿泊施設の改修支援や奈良公園の魅力発信を行い、奈良に精通した特区通訳案内士の導入等、外国人宿泊客の受入環境の充実による滞在型観光を推進し、「宿泊客数の増加」を図る。
・奈良公園の資源の維持・利活用による観光振興及び受入環境の充実による滞在型観光の推進を一体的に取り組み、更に燈花会等のイベントにおける飲食・物品販売の強化等により「観光消費額の増加」を推進し、「地域の活性化」を目指す。

④ 目標達成に向けた実施スケジュール（別紙１－２）

各数値目標については概ね順調に推移しており、本特区の目標達成に向け、今後も引き続き規制の特例や金融支援措置を活用し、地域独自の取組を一体的に進める。詳細については、別紙「実施スケジュール」を参照。

■規制の特例：

・地域活性化総合特別区域通訳案内士育成等事業

平成２６年６月２７日に計画認定を受け、平成２７年度から研修を開始した。今後も、平成３０年度の興福寺中金堂落慶に向けた行事が行われる予定であり、外国人観光客にそれらの正しい情報を伝えるため、通訳案内士の育成、確保、活用を進め、外国人観光客の受入環境の充実を図る。

■利子補給金：

・地域活性化総合特区支援利子補給金制度の適用による宿泊施設の改修の支援

平成２６年６月２７日に計画認定を受け、総合特区支援利子補給金支給金融機関についても平成２６年１１月２８日に指定され、制度を活用できる環境が整った。平成２７年度は１件の金融支援措置を行った。現在も金融支援措置について数件の問合せがあるため、引き続き制度の活用に向けて積極的な周知活動等を図り、宿泊客の受入環境の充実を図る。

■主な地域独自の取組：

・奈良公園の植栽の適切な管理
・特定天然記念物「春日山原始林」の保全
・天然記念物「奈良のシカ」の保護・育成に向けた取組の実施

・Wi-Fi 環境の整備
・電線地中化の整備
・案内サインの整備
・鹿苑の整備
・なら燈花会等誘客イベントの実施
・奈良公園周辺への宿泊客誘客キャンペーンの実施
・多言語コールセンターによる外国語通訳サービス・翻訳サービスの実施

４　規制緩和を活用した事業の実績及び自己評価（別紙２）

■特定地域活性化事業：(H28:累計 40 名)

・地域活性化総合特別区域通訳案内士育成等事業（通訳案内士法）

平成２６年６月２７日に特区通訳案内士の計画認定を受け、育成事業を進めた結果、４０名（平成２９年３月３１日現在）が登録された。特区通訳案内士の増加により、外国人観光客の受入環境の充実がより図られたところである。

５　財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価（別紙３）

■金融支援（利子補給金）：(H28:累計 1 件)

平成２６年６月２７日に利子補給制度が計画認定を受け、平成２６年１１月２８日に株式会社南都銀行が総合特区支援利子補給金支給金融機関として指定された。宿泊客の受入環境の充実に向け、当該制度の積極的な周知等に取組んでいる。主に本利子補給制度の対象になると考えられる特区内での大型案件については、平成２７年度は１件の金融支援措置を行った。今後も、金融支援措置について数件の問合せがあるため、引き続き開業等に向けて事業者を支援するとともに、当該制度の積極的な活用を図る。なお、中小企業者等の中・小規模案件は、これまで県独自の融資制度の利用が中心となっていたが、本利子補給制度も加え選択肢が広がったことにより、更なる促進を見込んでいる。

６　地域独自の取組の状況及び自己評価（別紙４）

（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

■財政・税制・金融上の支援措置

・創業支援資金

宿泊施設を創業する事業者が無利子、無担保で融資を受けられる制度で、「奈良の飲食店・宿泊施設育成支援資金」の「利子」「保証料」を撤廃した融資制度となっており、平成２８年度は１件の融資を行った。

・宿泊施設の新設、増設にかかる優遇税制

規模や定員等の一定要件を満たした宿泊施設の新設もしくは増設した事業者に対し、不動産取得税や事業税を軽減する制度で、平成２８年度は１件の適用実績があった。今後も近年中に対象規模の立地が複数件予定されていることから、本制度の更なる適用を見込んでいる。

・奈良の飲食店・宿泊施設育成支援資金利子補給金

開業や施設改修を行う事業者が低利で融資を受け、特に宿泊施設については、支払利子を更にキャッシュバックすることで、実質無利子で融資を受けられる制度となっ

ている。平成２８年度は、特区区域内の宿泊施設６件が当該制度を活用して施設改修を行い、宿泊施設の魅力向上を図った。

■規制緩和・強化等

・宿泊施設事業者へのアドバイス

公益財団法人奈良県地域産業振興センターにより、宿泊施設の創業、開業に伴う事業計画の策定や経営課題の解決支援として、経験豊かな専門家のアドバイスを受けることができる「よろず支援拠点」や「専門家派遣制度」を設けており、事業者が抱える専門的な課題にも対応できるように取組んでいる。平成２８年度については、これらの相談対応件数が２４６（３１社）あり、事業者が抱える課題の解決が図られるよう、引き続き積極的に支援していきたい。

■奈良公園の資源の「維持」に関する取組

・奈良公園の植栽の適切な管理

平成２８年度は、奈良公園植栽計画検討委員会を２回開催し、過年度に植栽計画を策定した「庭園植栽ゾーン（奈良春日野国際フォーラム）」の実施計画を検討した。また、吉城園周辺地区及び高畑町裁判所跡地の事業実施に併せ、周辺地区の植栽保全・活用方針を決定した。さらに、過年度に植栽計画を策定した「クロマツ疎林ゾーン」の一部において、植栽整備工事を昨年度に引き続き実施した。

・特定天然記念物「春日山原始林」の保全

平成２８年度は、これまでの検討内容をとりまとめ、春日山原始林保全計画を策定した。ナラ枯れ対策として、効果的な手法を検討するためのワーキンググループを発足した。あわせて実証実験として、植生保護柵のモニタリングを実施し、また、過年度に育苗を開始した後継樹の樹種別の発芽率等を分析し、新たに採取した種子の育苗も実施した。

・天然記念物「奈良のシカ」の保護・育成に向けた取組の実施

平成２８年度は、奈良のシカ保護管理計画検討委員会を２回開催し、奈良のシカの保護管理計画の策定にあたって、基本方針を取りまとめた。また緊急課題への対策として、「奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画」を策定し、農林業被害対策にかかる取組の検討を行った。

■奈良公園の資源の「利活用」に関する取組

・Wi-Fi 環境の整備

ＪＲ奈良駅及び近鉄奈良駅から奈良公園に至る主要動線上や主要施設において、平成２７年４月１日よりサービスの提供を開始した。さらに、吉城園周辺地区に Wi-Fi 環境を追加整備し、平成２８年１０月よりサービスの提供を開始した。

・案内サインの整備

ＪＲ奈良駅及び近鉄奈良駅から奈良公園に至る主要動線上の一部において、案内サインを平成２９年３月に整備した。

・電線地中化の整備

県庁東～大仏殿交差点において、全線の管路整備及び北側歩道の整備が平成２８年４月２１日に完了した。

・鹿苑の整備

鹿苑周辺の外周柵整備工事に着手し、平成２８年１月に完成した。さらに、平成２９年２月に浄化槽整備工事に着手し、同年８月に完成予定である。

7　総合評価

平成２８年度は、平成２７年度同様「奈良公園基本戦略」に基づく奈良公園の資源の維持・利活用に係る取組を着実に実施した。平成２６年度に計画認定を受けた特区通訳案内士は、登録者数が４０名までに増加しており、県独自で取組んでいる支援措置や規制緩和・調整等についても、利用実績が確実に増加している。

今後も、平成３０年１０月に行われる興福寺中金堂の落慶を契機として、更なる奈良公園の“資源の「維持」・「利活用」”による観光振興に係る取組や、受入環境充実による滞在型観光促進に係る取組を引き続き推進していきたい。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

			当初（平成23年）	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
評価指標（1） 奈良市の観光入込客数	代替指標（1） 奈良市の主要観光施設・行祭事等観光入込客数 数値目標（1） 814万人 → 1,142万人 （H23） （H30）	目標値				955 万人	1,001 万人	1,048 万人	1,095万人	1,142万人
		実績値	825 万人	793 万人	874 万人	882 万人	934 万人	1,012 万人		
	寄与度(※)：－（%）	進捗度（%）				92%	93%	97%		
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合		正規の評価指標である「奈良市の観光入込客数」は、奈良市が実施する奈良市観光入込客数調査に基づくものであり、当該調査の公表が翌年の10月頃であることから、評価時点では実績値を把握できない。そのため代替指標として「奈良市の主要観光施設・行祭事等観光入込客数」による事後評価を行うこととする。 認定計画書に記載した数値目標は本特区の目標である「観光の振興」の達成状況を測るための指標として、「奈良市の観光入込客数」の当年実績を把握するものである。代替指標の「奈良市の主要観光施設・行祭事等観光入込客数」は「奈良市の観光入込客数」に代えて「観光の振興」の達成状況を測ることが可能であり、本数値目標の代替指標として適切である。							
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		■目標達成の考え方 ・奈良公園の自然、歴史・文化、公園資源の「維持」・「利活用」を行い、観光振興を目指す。 ■目標達成に向けた主な取組： ・奈良公園の植栽の適切な管理、春日山原始林の保全 ・平成27、28年に実施した春日大社の式年造替、平成30年の興福寺中金堂落慶を契機とした社寺等との連携による誘客キャンペーンの展開 ・官民が連携した継続的な誘客イベントの開催、誘客キャンペーンの実施							
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等		代替指標については、今後も一定の伸長が想定されるため、過去の本指標に対する代替指標の比率（実績値）の平均値を算出し、この平均値を基に毎年の代替指標の目標値を算出したもの。							
	進捗状況に係る自己評価（進捗が遅れている場合は要因分析）及び次年度以降の取組の方向性		■平成28年度の主な取組状況 ・奈良公園の植栽の適切な管理、春日山原始林の保全、春日大社式年造替に向けた誘客キャンペーン等を着実に実施している。 ・奈良市の観光入込客数については、目標値を下回ったものの、実績値の伸び率が目標値の伸び率を4%上回り、進捗度でも4%上昇している。このことから、順調に取組の効果が得られていると判断できる。 ■今後の方向性 ・以上の結果も踏まえ、今後は文化財保護法施行令の改正による現状変更許可の手続きを迅速に行い、更に円滑な取組を行うことで、奈良公園の資源の維持・利活用による観光振興を推進する。これにより、観光入込客数が目標値に達するよう、更なる効果的な取組を実施していく。							
	外部要因等特記事項									

※寄与度：一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

［指摘事項］	［左記に対する取組状況等］

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

			当初（平成23年）	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
評価指標（2） 奈良市の宿泊者数	代替指標（2） 奈良市の宿泊者数【観光庁統計・宿泊旅行統計調査】 数値目標（2） 115万人 → 166万人 （H23） （H30）	目標値				137 万人	144 万人	152 万人	159万人	166万人
		実績値	110 万人	127 万人	160 万人	127 万人	150 万人	144 万人		
	寄与度(※)：－（%）	進捗度（%）				93%	104%	95%		
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合		正規の評価指標である「奈良市の宿泊者数」は、奈良市が実施する奈良市観光入込客調査に基づくものであり、当該調査の公表が翌年の10月頃であることから、評価時点では実績値を把握できない。そのため代替指標として観光庁が実施する宿泊旅行統計調査で把握した「奈良市の宿泊者数」による事後評価を行うこととする。 認定計画書に記載した数値目標は本特区が目指している「滞在型観光の推進」の達成状況を測るための指標として、奈良市が公表する統計値である「奈良市の宿泊者数」の当年実績を把握するものである。代替指標として観光庁が公表する統計値である「奈良市の宿泊者数」は、正規の評価指標に代えて「滞在型観光の推進」の達成状況を測ることが可能であり、本数値目標の代替指標として適切である。							
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		■目標達成の考え方： ・宿泊施設改修の支援・推進や奈良公園の魅力発信を行い、さらに外国人宿泊客の誘客キャンペーン等を行う事で、宿泊客の受入環境の充実による滞在型観光の推進を目指す。 ■目標達成に向けた主な取組： ・地域活性化総合特区支援利子補給金制度の適用 ・奈良公園周辺への宿泊客誘客キャンペーンや大都市での観光PRイベントの実施 ・地域活性化総合特別区域通訳案内士の充実及びWi-Fi環境の整備							
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等		代替指標については、今後も一定の伸長が想定されるため、過去の本指標に対する代替指標の比率（実績値）の平均値を算出し、この平均値を基に毎年の代替指標の目標値を算出したもの。							
	進捗状況に係る自己評価（進捗が遅れている場合は要因分析）及び次年度以降の取組の方向性		■平成28年度の主な取組状況 ・奈良公園周辺への宿泊客誘客キャンペーンを夏と冬に2回実施し、また大都市での観光PRイベントを首都圏と九州でそれぞれ年に2回ずつ実施した。 ・宿泊施設改修については、平成27年度に実施した、利子補給金制度を活用した金融支援措置を継続実施。 ・特区通訳案内士については、新たに8名が登録され、合計登録者数が40名（中国語28名、韓国語12名）となった。 ・平成27年度にサービスを開始した「NARA Free-WiFi」について、平成28年度に吉城園周辺地区を追加整備し、同年10月からサービスを開始した。 ■今後の方向性： ・奈良市の宿泊者数については、目標値を下回ったものの、地域独自の制度を活用した金融支援措置の利用実績も確認されており、また、外国人観光客の受入環境の充実も確実に行われている。引き続き、奈良公園の魅力発信や外国人宿泊客の誘客キャンペーンを継続し、利子補給金制度の利用促進を行い、宿泊客の受入環境の充実による滞在型観光の推進を図りたい。							
	外部要因等特記事項									

※寄与度：一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

［指摘事項］	［左記に対する取組状況等］

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

			当初（平成23年）	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
評価指標（3） 奈良市の観光消費額	代替指標（3） 奈良市の観光消費額 数値目標（3） 785億円 → 1,109億円 （H23） （H30）	目標値				936 億円	970 億円	1,017 億円	1,063億円	1,109億円
		実績値	737 億円	851 億円	1,016 億円	718 億円	1,227 億円	945 億円		
	寄与度(※)：－（%）	進捗度（%）				77%	126%	93%		
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合		正規の評価指標である「奈良市の観光消費額」は、奈良市が実施する奈良市観光入込客数調査より把握したデータを用いて算出しており、当該調査の公表が翌年の10月頃であることから、評価時点では実績値を把握できない。そのため代替指標として把握した「奈良市の主要観光施設・行祭事等観光入込客数」及び観光庁が実施する宿泊旅行統計調査で把握した「奈良市の宿泊者数」を用いて算出した「【代替】奈良市の観光消費額」により事後評価を行うこととする。 認定計画書に記載した数値目標は本特区の目標である「観光の振興」、「滞在型観光の推進」の達成状況を測るための指標として、奈良市が公表する統計値である「奈良市の観光消費額」の当年実績を把握するものである。代替指標の「奈良市の観光消費額」は、正規の評価指標に代えて「観光の振興」、「滞在型観光の推進」の達成状況を測ることが可能であり、本数値目標の代替指標として適切である。							
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		■目標達成の考え方： ・奈良公園の様々な資源を「維持」・「利活用」することによる観光振興、また、奈良公園周辺の宿泊客や外国人観光客の受入環境の充実に向けた取組を一体的に進め、観光消費額の増加を目指す。 ■目標達成に向けた主な取組： ・春日大社境内地の整備、なら燈花会・なら瑠璃絵・若草山焼きの実施、大都市での観光PRイベント、海外での旅行博への出展、Wi-Fi環境の整備、外国人富裕層市場開拓事業など。							
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等		代替指標については、今後も一定の伸長が想定されるため、過去の本指標に対する代替指標の比率（実績値）の平均値を算出し、この平均値を基に毎年の代替指標の目標値を算出したもの。							
	進捗状況に係る自己評価（進捗が遅れている場合は要因分析）及び次年度以降の取組の方向性		■平成28年度の主な取組状況 ・春日大社境内地の整備を順調に行い、なら燈花絵、なら瑠璃絵、若草山焼きも実施した。 ・海外での旅行博への出展を5カ国で行い、カンヌ・東京で外国人富裕層開拓事業を実施した。 ・大都市での観光PRイベントを首都圏と九州でそれぞれ年に2回ずつ実施した。 ・平成27年度にサービスを開始した「NARA Free-WiFi」について、平成28年度に吉城園周辺地区を追加整備し、同年10月からサービスを開始した。 ■今後の方向性： ・原単位の低下により、奈良市の観光消費額は、昨年度より減少しているが、奈良市の観光客数は増加しており、奈良公園の資源の「維持」「利活用」や外国人観光客の受入環境の充実が確実に行われている。引き続き、観光振興及び受入環境の充実による滞在型観光の推進を一体的に行い、観光消費額の増加を目指していきたい。							
	外部要因等特記事項									

※寄与度：一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

［指摘事項］	［左記に対する取組状況等］

目標達成に向けた実施スケジュール
特区名：奈良公園観光地域活性化総合特区

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	年月	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
全体	奈良公園観光地域活性化総合特区の創設	● 計画認定		● 区域変更認定 ● 計画変更認定		
事業1	奈良公園の眺望・景観の保全や天然記念物奈良のシカの保護・育成など自然資源の「維持」・「利活用」に向けた取組の実施					
	奈良公園の植栽の適切な管理	植栽計画の策定（芝地・花木林ｿﾞｰﾝ）		〃（庭園植栽ｿﾞｰﾝ）		〃（その他ｿﾞｰﾝ）
		植栽計画に基づいた植栽整備（植林、剪定、伐採）の実施				
	特定天然記念物「春日山原始林」の保全	春日山原始林保全計画の策定		保全方策マニュアルの検討		
		春日山原始林保全計画に基づいた植生保護柵の設置とモニタリング調査、ナラ枯れ対策、外来樹種の拡大防止対策等				
	天然記念物「奈良のシカ」の保護・育成に向けた取組の実施	シカ保護管理計画策定（基礎調査）	〃（基礎構想）	〃（基本方針）	〃（実施計画）	〃（実施ﾏﾆｭｱﾙ、執行体制の構築）
		保護管理計画に基づいた農作物被害と人身被害の抑制策の実施				
	天然記念物奈良のシカの保護・育成する鹿苑の改修	外周柵工事		造成工事・建築工事		
	電線地中化の整備	県庁東～大仏殿交差点		次工区		
事業2	史跡における境内地整備など歴史・文化資源の「維持」・「利活用」に向けた取組の実施					
	春日大社境内地の整備（能舞台の復元など）	参道整備、サイン類の整備、駐車場周辺他の修景施設整備、春日若宮、おん祭神事芸能装束庫新築、駐車場公衆トイレ改修、駐車場架床及び路面改修整備、来訪者用茶室整備　など				
				築地跡の復元・表示等整備事業、一の鳥居周辺整備事業、参拝者用無料休憩所整備、祭事資材倉庫新築、貴賓館及び周辺土塀改修整備、祈祷所増築整備　など		
	興福寺旧境内地の整備（中金堂、僧房の復元など）	中金堂復元整備				
		西室・小子房・中室整備		中金堂回廊等整備		
	東大寺旧境内地の整備（東塔の復元など）	整備計画策定				
		地形測量（東塔跡地区）	発掘調査等（東塔跡地区）			
		地形測量（西塔跡地区）			発掘調査等（西塔跡地区）	
	春日大社式年造替や興福寺中金堂落慶に向けた取組の実施					
	奈良観光キャンペーンの実施	● 首都圏、九州　● 首都圏　九州 ●	● 首都圏、九州　● 首都圏　九州	● 首都圏、九州　● 首都圏　九州	● 首都圏、九州　● 首都圏　九州	● 首都圏、九州　● 首都圏　九州
	春日大社式年造替（H26～28）→　興福寺中金堂落慶（H28～30）	● 3月27日 仮殿遷座祭		● 11月6日　本殿遷座	● 1月1日　興福寺国宝館ﾘﾆｭｰｱﾙｵｰﾌﾟﾝ	● 10月7～11日　興福寺中金堂落慶法要
事業3	奈良公園のにぎわいづくりなど公園資源の「維持」・「利活用」に向けた取組の実施					
	なら燈花会の実施	● 8月5～14日	● 8月5～14日	● 8月5～14日	● 8月5～14日	●
	なら瑠璃絵の実施	● 2月8～14日	● 2月8～14日	● 2月8～14日	● 2月8～14日	●
	若草山焼きの実施	● 1月第4土曜日	● 1月第4土曜日	● 1月29日	● 1月27日	●

目標達成に向けた実施スケジュール
特区名：奈良公園観光地域活性化総合特区

年	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
月	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
事業4　奈良公園への宿泊客の受入環境の充実に向けた取組の実施					
奈良公園道先案内人の設置	（体制構築（H25.11））		運営		
おもてなし研修の実施		実施	実施	実施予定	
奈良公園周辺への宿泊客誘客キャンペーンの実施	冬ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ	夏ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ　冬ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ	夏ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ　冬ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ	夏ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ　冬ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ	夏ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ　冬ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ
	PRﾊﾟﾝﾌ等作成　PRﾊﾟﾝﾌ等作成	PRﾊﾟﾝﾌ等作成　PRﾊﾟﾝﾌ等作成	PRﾊﾟﾝﾌ等作成　PRﾊﾟﾝﾌ等作成	PRﾊﾟﾝﾌ等作成　PRﾊﾟﾝﾌ等作成	PRﾊﾟﾝﾌ等作成　PRﾊﾟﾝﾌ等作成
大都市での観光PRイベント	●　●● 首都圏、九州　首都圏　九州	●　●● 首都圏、九州　首都圏　九州	●　● 首都圏、九州　首都圏　九州	●　● 首都圏、九州　首都圏　九州	●　● 首都圏、九州　首都圏　九州
地域活性化総合特区支援利子補給金制度の適用による宿泊施設の改修の支援 金融機関指定申請 各団体等への周知及び受付	金融機関指定 申請・指定 ● 計画認定 周知・受付・実施				
事業5　奈良公園への外国人観光客の受入環境の充実に向けた取組の実施					
多言語コールセンターの開設	外国語通訳サービスの実施（奈良公園周辺）（試験運用 H25.12～H26.3.31）（本格実施H26.4.1～） 外国語通訳サービスの実施（奈良県内）		外国語通訳サービス・翻訳サービスの実施（奈良県内）		
外国語表記の案内看板の設置					
官民一体となった現地プロモーションの実施	●　● 香港、韓国　韓国	●　●● 香港　米国　中国	●　● 台湾　仏	● 台湾	
海外での旅行博への出展	●　●　● MATTA出展　SITV出展　TITF出展	●　●　● タイ・シンガポール・台湾　仏	●●●　●● ｽﾍﾟｲﾝ　仏　シンガポール　タイ　仏	VJ事業で適宜実施	
ファムトリップの実施	●　● 台湾、韓国　香港	● マレーシア　東アジア・東南アジア		VJ事業・県事業で適宜実施	
国際会議の誘致促進	コンベンション機能の強化	国際会議等の誘致活動（適宜）			
Wi-Fi環境の整備	設計・整備	● 4/1～　NARA Free Wi-Fi　サービス開始	追加整備、保守・運用		
奈良県観光レップ設置事業	重点市場への設置				
旅行商品着地オペレーター設置事業	英語圏・中国語圏への設置				
外国人富裕層市場開拓事業	●　● カンヌ出展　京都出展	●　●　● 上海出展　カンヌ出展　京都出展	●　● カンヌ出展　東京出展	富裕層向け商談会へ適宜出展	
奈良県外国人観光客交流館の開設	改修工事	● 一部オープン　設計及び改修工事	● ホテル一部オープン　修補工事	● フルオープン	
地域活性化総合特別区域通訳案内士 ①制度の周知・業者選定 ②受講生の募集 ③研修の実施 ④口述試験 ⑤特区通訳案内士登録	●①制度の周知・業者選定 計画認定　②受講生の募集 ③研修の実施	●口述試験 ⑤特区通訳案内士登録 ②受講生の募集 ③研修の実施	●口述試験	地域限定特例通訳案内士として適宜実施。	

■規制の特例措置を活用した事業の実績及び評価

地域活性化事業の名称	関連する数値目標	事業の実施状況	直接効果 （できる限り数値を用いること）	自己評価	規制所管府省による評価
地域活性化総合特別区域通訳案内士育成等事業 （観光B001）	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	・平成27年8月10日から9月15日にかけて受講生募集を実施した。 ・平成27年10月4日から平成28年1月24日にかけて13日間の研修を実施した。 ・平成28年2月13日に口述試験を実施した。 ・平成28年3月1日に合格発表を行った。	・受講生募集を行ったところ、36名の応募があった。 ・受講生36名に対し、13日間の研修を実施した。 ・口述試験には26名が受験し、中国語16名、韓国語4名が合格した。 ・合格者の内、平成28年度に特区通訳案内士として登録を行った者は中国語6名、韓国語2名となっている。（平成29年3月31日現在） ・今後は特区通訳案内士としての活動を開始し、外国人観光客への受入環境の充実に寄与する。	・計画認定を受けた平成26年度以降、中国語が計28名（H27まで：22名、H28：6名）、韓国語が計12名（H27まで：10名、H28：2名）の特区通訳案内士が誕生した。 ・奈良県では、経済成長が著しい中国からの観光客が多いという特色があるため、本事業において中国語28名の特区通訳案内士が誕生したことにより、今後の目標達成に向け、効果が見込まれるものと考えている。	規制所管府省名：国土交通省（観光庁） ■　特例措置の効果が認められる □　特例措置の効果が認められない ⇒□要件の見直しの必要性あり □　その他 ＜特記事項＞ 地方部における通訳ガイドが不足している状況において、特区通訳案内制度の導入により、質の高い地域通訳ガイドの増加が図られており、特例措置の効果が認められる。本特例措置は、改正通訳案内士法（公布日（平成29年6月2日）から9ヶ月以内で政令で定める日に施行）により、地域通訳案内士制度として全国展開が図られることになるが、今後も、引き続き、地域における通訳ガイドの質と量の確保を図り、訪日外国人旅行者の多様なニーズに的確に対応していく必要がある。

■国との協議の結果、全国展開された措置を活用した事業の実績及び評価

全国展開された措置の名称	関連する数値目標	事業の実施状況	直接効果 （できる限り数値を用いること）	自己評価	規制所管府省による評価
該当なし					規制所管府省名：＿＿＿＿＿＿ ＜参考意見＞

■国との協議の結果、現時点で実現可能なことが明らかとなった措置による事業の実績及び評価

現時点で実現可能なことが明らかとなった措置の概要	関連する数値目標	事業の実施状況	直接効果 （できる限り数値を用いること）	自己評価	規制所管府省による評価
該当なし					規制所管府省名：＿＿＿＿＿＿ 規制協議の整理番号：＿＿＿＿＿ ＜参考意見＞

■上記に係る現地調査時指摘事項

［指摘事項］	［左記に対する取組状況等］

■財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価（国の支援措置に係るもの）

財政支援措置の状況

事業名	関連する数値目標	年度	H24	H25	H26	H27	H28	累計	自己評価
該当なし		財政支援要望	（千円）	（千円）	（千円）	（千円）	（千円）	（千円）	
		国予算(a)（実績）	（千円）	（千円）	（千円）	（千円）	（千円）	（千円）	
		自治体予算(b)（実績）	（千円）	（千円）	（千円）	（千円）	（千円）	（千円）	
		総事業費(a+b)	（千円）	（千円）	（千円）	（千円）	（千円）	（千円）	

税制支援措置の状況

事業名	関連する数値目標	年度	H24	H25	H26	H27	H28	累計	自己評価
該当なし		件数							

金融支援措置の状況

事業名	関連する数値目標	年度	H24	H25	H26	H27	H28	累計	自己評価
地域活性化総合特区支援利子補給金	数値目標（２） 数値目標（３）	件数	－	－	－	1	0	1	平成２６年６月２７日に利子補給制度が計画認定を受け、平成２６年１１月２８日に株式会社南都銀行が総合特区支援利子補給金支給金融機関として指定された。宿泊客の受入環境の充実に向け、県独自の融資制度等様々なメニューと併せ積極的な周知等に取り組んでいる。 主に本利子補給制度の対象になると考えられる特区内での大型案件については、平成27年度は１件の金融支援措置を行った。今後も、金融支援措置について数件の問合せがあるため、引き続き開業等に向けて事業者を支援するとともに、当該制度の積極的な活用を図る。 なお、中小企業者等の中・小規模案件は、これまで県独自の融資制度の利用が中心となっているが、本利子補給制度も加え選択肢が広がったことにより、更なる促進を見込んでいる。

■上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]

地域独自の取組の状況及び自己評価（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

■財政・税制・金融上の支援措置

財政支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
創業支援資金	数値目標（２）	平成28年度　適用件数　　1件	当該制度は、宿泊施設を創業する事業者が無利子、無保証料で融資を受けられる制度で、「奈良の飲食店･宿泊施設育成支援資金」の「利子（既支払分についてはキャッシュバック）」「保証料」を撤廃した、更に利用しやすい融資制度としている。	奈良県
税制支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
宿泊施設の新設、増設にかかる優遇税制	数値目標（２） 数値目標（３）	平成28年度　適用件数　　1件	当該制度は、平成18年度より実施しており、規模や定員等、一定要件を満たした宿泊施設の新設、増設した事業者に対して、不動産取得税、事業税を軽減するもので、これまで特区区域内に宿泊施設を新設した3件の事業者に適用している。 平成28年度は1件の適用があり、今後も、近年中に対象規模の立地が複数件予定されていることから、本制度の更なる適用を見込んでいる。	奈良県
金融支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
奈良の飲食店･宿泊施設育成支援資金利子補給金	数値目標（２） 数値目標（３）	平成28年度　融資件数　　6件	当該制度は、開業や施設改修される事業者が低利で融資を受け、企業立地推進課が支払利子をキャッシュバックすることで、実質無利子で融資を受けられる制度となっている。平成28年度は、奈良公園を訪れる観光旅客の受入環境充実のため、県独自の本融資制度を活用して、特区区域内の宿泊施設（6件）が新規開業及び施設改修を行い、区域内の魅力向上を図った。	奈良県

■規制緩和・強化等

規制緩和				
取組	関連する数値目標	直接効果（可能であれば数値を用いること）	自己評価	自治体名
該当なし				
規制強化				
取組	関連する数値目標	直接効果（可能であれば数値を用いること）	自己評価	自治体名
該当なし				

その他				
取組	関連する数値目標	直接効果（可能であれば数値を用いること）	自己評価	自治体名
宿泊施設事業者へのアドバイス	数値目標（２） 数値目標（３）	平成28年度　相談対応件数　　246件（31社）	公益財団法人奈良県地域産業振興センターにより、宿泊施設の創業、開業に伴う事業計画の策定や経営課題の解決支援として、経験豊かな専門家のアドバイスを受けることができる「よろず支援拠点」や「専門家派遣制度」を設けており、事業者が抱える専門的な課題にも対応できるよう取り組んでいる。	奈良県

■体制強化、関連する民間の取組等

体制強化	該当なし
民間の取組等	該当なし

■上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]

■（参考）認定計画書に記載した数値目標に対する実績

			当初（平成23年）	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
評価指標（1） 奈良市の観光入込客数	数値目標（1）	目標値（※2）				1,540 万人	1,615 万人	1,691 万人	1,766 万人	1,842 万人
		実績値	1,314 万人	1,332 万人	1,380 万人	1,414 万人	1,498 万人			
	寄与度(※1)：100（%）	進捗度（%）				92%	93%			
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		■目標達成の考え方 ・奈良公園の自然、歴史・文化、公園資源の「維持」・「利活用」を行い、観光振興を目指す。 ■目標達成に向けた主な取組： ・奈良公園の植栽の適切な管理、春日山原始林の保全 ・平成27、28年に実施される春日大社の式年造替、平成30年の興福寺中金堂落慶を契機とした社寺等との連携による誘客キャンペーンの展開 ・官民が連携した継続的な誘客イベントの開催、誘客キャンペーンの実施							
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等(※2)		実績値については、奈良市が実施する奈良市観光入込客数調査による。 目標値については、平城京遷都1300年記念を開催した平成22年の実績（1,842万人）を平成30年の目標とし、平成23年の実測値を基準として、段階的に各年度の目標値を定めたものである。							
	進捗状況に係る自己評価（進捗が遅れている場合は要因分析）及び次年度以降の取組の方向性		■平成27年度の主な取組状況 ・奈良公園の植栽の適切な管理、春日山原始林の保全、春日大社式年造替に向けた誘客キャンペーン等を着実に実施している。 ・奈良市の観光入込客数については、目標値を下回ったものの、実績値の伸び率が目標値の伸び率を1%上回り、進捗度でも1%上昇している。このことから、順調に取組の効果が得られていると判断できる。 ■今後の方向性 ・以上の結果も踏まえ、今後は文化財保護法施行令の改正による現状変更許可の手続きを迅速に行い、更に円滑な取組を行うことで、奈良公園の資源の維持・利活用による観光振興を推進する。これにより、観光入込客数が目標値に達するよう、更なる効果的な取組を実施していく。							
	外部要因等特記事項									
	代替指標による評価又は定性的評価との比較分析		進捗度等について、代替指標と大きな乖離はない。							

※1　寄与度：一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。
※2　数値目標に係る目標値について、各年度の目標設定ができない場合は、目標達成予定年度のみ数値目標及び実績値の両方を記載し、目標達成予定年度以外の年度については、当該年度の実績値のみを記載してください。
また、その場合は「各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等」の欄に、当初設定した数値目標に係る目標設定の考え方や数値の根拠を記載してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

［指摘事項］	［左記に対する取組状況等］

■（参考）認定計画書に記載した数値目標に対する実績

			当初（平成23年）	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
評価指標（2） 奈良市の宿泊者数	数値目標（2）	目標値（※2）				161 万人	170 万人	179 万人	187 万人	196 万人
		実績値	136 万人	143 万人	142 万人	151 万人	161 万人			
	寄与度(※1)：100（%）	進捗度（%）				94%	95%			
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		■目標達成の考え方： ・宿泊施設改修の支援・推進や奈良公園の魅力発信を行い、さらに外国人宿泊客の誘客キャンペーン等を行う事で、宿泊客の受入環境の充実による滞在型観光の推進を目指す。 ■目標達成に向けた主な取組： ・地域活性化総合特区支援利子補給金制度の適用 ・奈良公園周辺への宿泊客誘客キャンペーンや大都市での観光PRイベントの実施 ・地域活性化総合特別区域通訳案内士の充実及びWi-Fi環境の整備							
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等(※2)		実績値については、奈良市が実施する奈良市宿泊客数調査による。 目標値については、平城京遷都1300年記念を開催した平成22年の実績（196万人）を平成30年の目標とし、平成23年の実測値を基準として、段階的に各年度の目標値を定めたものである。							
	進捗状況に係る自己評価（進捗が遅れている場合は要因分析）及び次年度以降の取組の方向性		■平成27年度の主な取組状況 ・奈良公園周辺への宿泊客誘客キャンペーンを夏と冬に2回実施し、また大都市での観光PRイベントを首都圏と九州でそれぞれ年に2回ずつ実施した。 ・宿泊施設改修については、利子補給金制度を活用した金融支援措置を1件実施した。 ・特区通訳案内士については、通訳案内士育成研修を実施し、新たに14名が登録され、合計登録者数が32名（中国語22名、韓国語10名）となった。 ・奈良公園の主要動線上や主要観光施設に整備した「NARA Free-WiFi」のサービスを開始した。 ■今後の方向性： ・奈良市の宿泊者数は増加傾向で順調に推移しており、利子補給金制度を活用した金融支援措置の利用実績も確認されており、また、外国人観光客の受入環境の充実も確実に行われている。引き続き、奈良公園の魅力発信や外国人宿泊客の誘客キャンペーンを継続し、利子補給金制度の利用促進を行い、宿泊客の受入環境の充実による滞在型観光の推進を図りたい。							
	外部要因等特記事項									
	代替指標による評価又は定性的評価との比較分析		進捗度等について、代替指標よりもやや減少しているものの、目標値の伸び率と、実績値の伸び率に大きな乖離はない。							

※1　寄与度：一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。
※2　数値目標に係る目標値について、各年度の目標設定ができない場合は、目標達成予定年度のみ数値目標及び実績値の両方を記載し、目標達成予定年度以外の年度については、当該年度の実績値のみを記載してください。
また、その場合は「各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等」の欄に、当初設定した数値目標に係る目標設定の考え方や数値の根拠を記載してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

［指摘事項］	［左記に対する取組状況等］

■（参考）認定計画書に記載した数値目標に対する実績

			当初（平成23年）	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
評価指標（3） 奈良市の観光消費額	数値目標（3）	目標値（※2）				1,379 億円	1,448 億円	1,517 億円	1,586 億円	1,655 億円
		実績値	1,172 億円	1,202 億円	1,229 億円	974 億円	1,685 億円			
	寄与度(※1)：100（%）	進捗度（%）				71%	116%			
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		■目標達成の考え方： ・奈良公園の様々な資源を「維持」・「利活用」することによる観光振興、また、奈良公園周辺の宿泊客や外国人観光客の受入環境の充実に向けた取組を一体的に進め、観光消費額の増加を目指す。 ■目標達成に向けた主な取組： ・春日大社境内地の整備、なら燈花会・なら瑠璃絵・若草山焼きの実施、大都市での観光PRイベント、海外での旅行博への出展、Wi-Fi環境の整備、外国人富裕層市場開拓事業など。							
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等(※2)		実績値については、奈良市が実施する奈良市の観光入込客数及び宿泊客数調査及び原単価を基に算出している。 目標値については、平城京遷都1300年記念平成22年の実績（1,655億円）を平成30年の目標とし、平成23年の実測値を基準として、段階的に各年度の目標値を定めたものである。							
	進捗状況に係る自己評価（進捗が遅れている場合は要因分析）及び次年度以降の取組の方向性		■平成27年度の主な取組状況 ・春日大社境内地の整備を順調に行い、なら燈花絵、なら瑠璃絵、若草山焼きも実施した。 ・海外での旅行博への出展を4カ国で行い、カンヌ・東京で外国人富裕層開拓事業を実施した。 ・大都市での観光PRイベントを首都圏と九州でそれぞれ年に2回ずつ実施した。 ・奈良公園の主要動線上や主要観光施設に整備した「NARA Free-WiFi」のサービスを開始した。 ■今後の方向性： ・奈良市の観光消費額は増加傾向で順調に推移しており、奈良公園の資源の「維持」「利活用」や外国人観光客の受入環境の充実が確実に行われている。引き続き、観光振興及び受入環境の充実による滞在型観光の推進を一体的に行い、観光消費額の増加を目指していきたい。							
	外部要因等特記事項									
	代替指標による評価又は定性的評価との比較分析		観光客数全体からみた宿泊者数の割合について、代替値よりも実績値の方が低下していた。これを受け、原単位の高い宿泊者数の観光消費額が低下したため、進捗度に若干の差異が生じたと考えられる。							

※1　寄与度：一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。
※2　数値目標に係る目標値について、各年度の目標設定ができない場合は、目標達成予定年度のみ数値目標及び実績値の両方を記載し、目標達成予定年度以外の年度については、当該年度の実績値のみを記載してください。
また、その場合は「各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等」の欄に、当初設定した数値目標に係る目標設定の考え方や数値の根拠を記載してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

［指摘事項］	［左記に対する取組状況等］